

豊中市都市景観形成マスタープラン

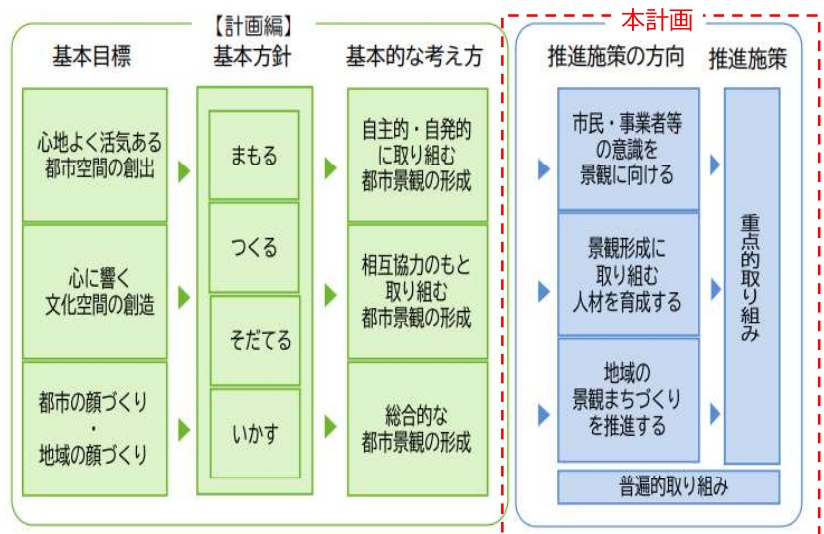
〔第2期推進編〕

概要版

1. 豊中市都市計画形成マスタープラン〔推進編〕とは

本計画は、「豊中市都市景観条例」に位置づけられた「基本計画」の推進編として、「豊中市都市景観形成マスタープラン〔計画編〕」に示された総合的な方向性に基づき、具体的な推進方策や推進プログラムを示すものです。

本計画は、平成26年度～令和5年度を第1期とする推進編の次期計画「豊中市都市景観形成マスタープラン〔第2期推進編〕」とします。



2. 豊中市都市計画形成マスタープラン〔第2期推進編〕の基本的な考え方

(1) 豊中市都市計画形成マスタープラン〔第1期推進編〕について

第1期では、推進施策の重点的取り組みとして「景観まちづくりの共有」、「景観スタイリストの支援」、「重点的な地区の景観形成の推進」を設定し、普遍的な取り組みと合わせて、様々な取り組みを実施し、都市景観形成を推進しました。

(2) 豊中市都市計画形成マスタープラン〔第2期推進編〕策定の基本的な考え方

第2期では、第1期の評価、課題をふまえ、一層の推進に取り組むことを基本とし、社会環境の変化への柔軟な対応を見据え、さらなる都市景観形成の推進に向けた具体的なプログラムなどを設定します。また、第1期の取り組みも必要に応じて継続するとともに、デジタル社会への対応やSDGs（持続可能な開発目標）の達成に関する視点をもって、取り組みを進めます。

(3) 目標年次

令和6年度（2024年度）から10年後の令和15年度（2033年度）を目標年次とします。（毎年度取り組み状況を検証し、必要に応じて適宜見直します）

1. 推進施策の方向性

(1) 推進の方向と重点施策

計画編に示す「景観形成に向けた基本的な考え方」に沿って定める「推進の方向」については、第1期で設定したものいずれもが、今後も引き続き進めていくことで効果が持続・拡大していくものであるため、第1期の「推進の方向」を継続することとします。

「重点施策」については、市民・事業者等が、意識を景観に向け続けるように、魅力的などよなかの景観まちづくりについて、共有からさらに意識向上に取り組むとともに、相互協力のもとに景観形成に取り組む人材・景観スタイリストの活躍推進に取り組みます。また、地域の景観まちづくりの推進に関しては、引き続き重点的な地区の景観形成を推進することとし、新たなルールづくりへの支援に加えて、既存のルールの維持に向けた支援に取り組みます。

計画編		
景観形成に向けた基本的な考え方	推進の方向	重点施策
○自主的・自発的に取り組む都市景観の形成	⇒ 市民・事業者等の意識を景観に向ける ⇒	景観まちづくりへの意識向上
○相互協力のもと取り組む都市景観の形成	⇒ 景観形成に取り組む人材を育成する ⇒	景観スタイリストの活躍推進
○総合的な都市景観の形成 ・状況に応じた都市景観形成 ・関連施策の活用による都市景観形成 ・地域の特性に応じた都市景観形成	⇒ 地域の景観まちづくりを推進する ⇒	重点的な地区の景観形成の推進

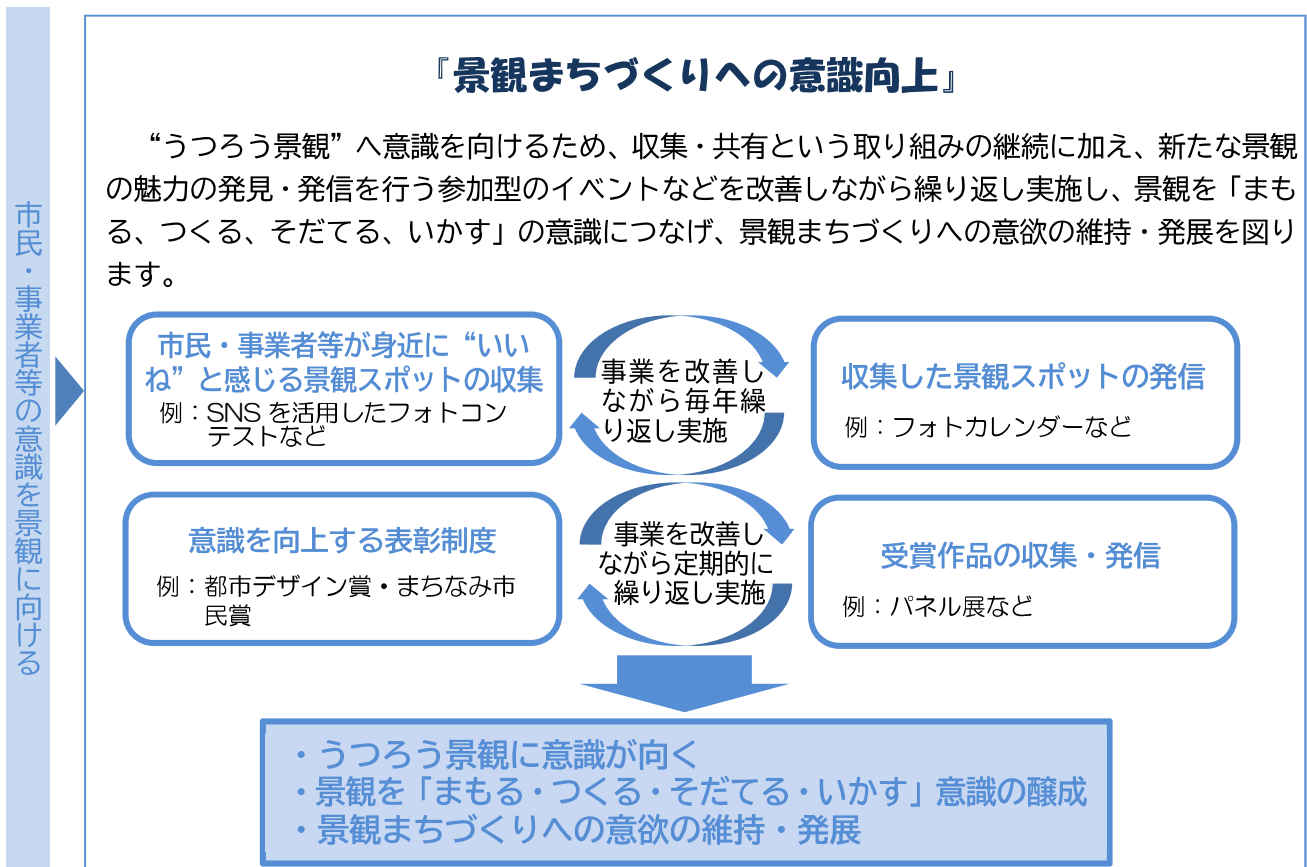
(2) 継続して取り組む普遍的施策

市全域を対象に、良好な公共空間整備や建築物のデザイン誘導といった一つ一つの取り組みを通して、景観の質的向上を図ります。

2. 推進施策

推進の方向

推進施策（重点的取り組み）

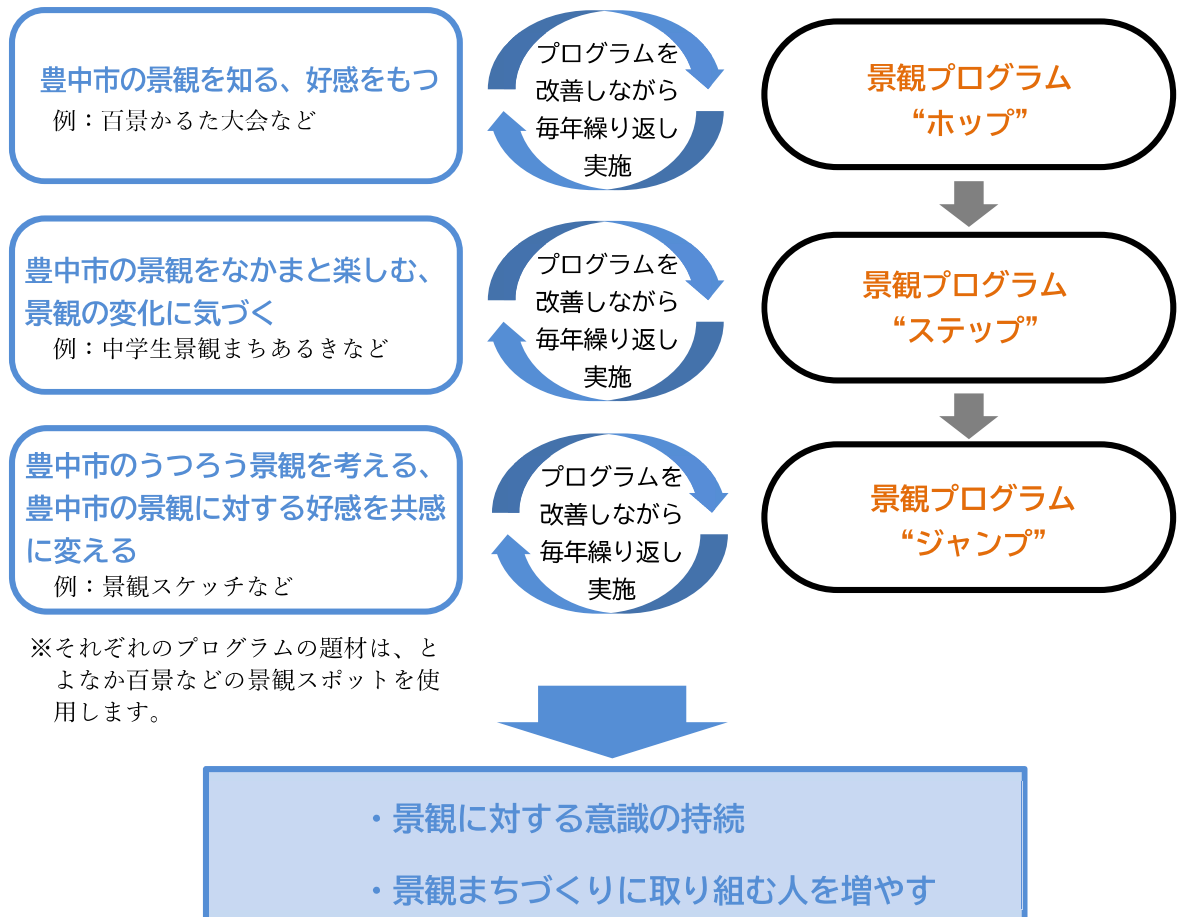


『景観スタイリストの活躍推進』

これまでの景観スタイリスト育成・支援プログラムに、身近な景観について好感をもち、それを周りの人と楽しみ、うつろう景観について考えることで、身近な景観をまもる意識や新たな魅力を感じ、育て、いかしていく意識を醸成する視点を取り入れるとともに、各プログラム参加者へのアンケート等により効果を確認し、適宜プログラムの見直しを行います。

加えて、景観に対する意識の芽生える過程を“ホップ”、まわりのひとと共有したり、景観の変化に対する気づきを体験する過程を“ステップ”、うつろう景観を考え、次の行動につながるきっかけを意識する過程を“ジャンプ”に分けたステップアッププログラムで、継続的な景観まちづくりの意識の醸成を図り、新しい景観の発見や発信、景観まちづくりに取り組むといった行動へとつなげていきます。

また、『景観まちづくりへの意識向上』の取り組みと連携させることで、重点的な取り組みを横断的なものとし、各取り組みの相乗効果を図ります。



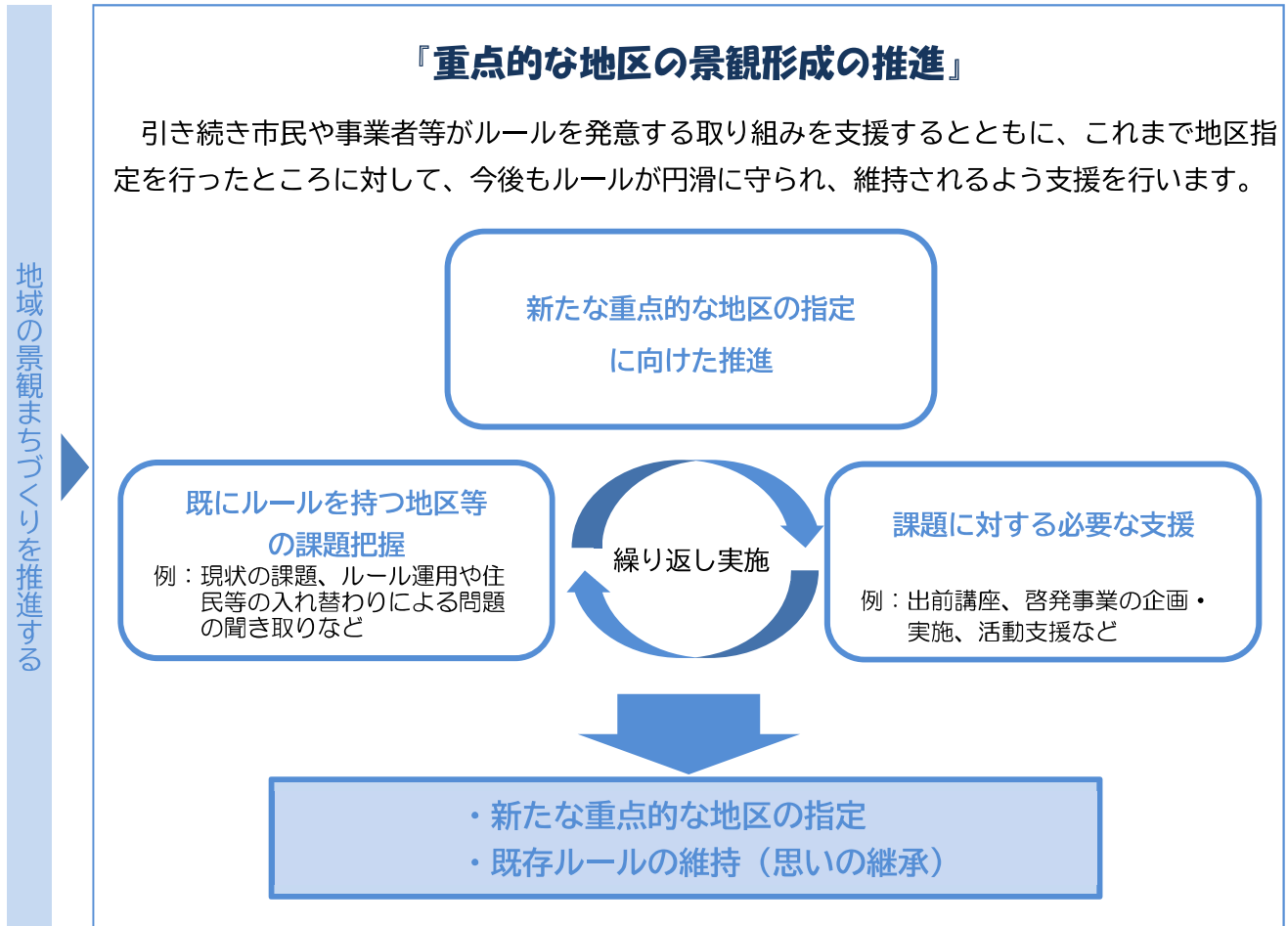
※それぞれのプログラムの題材は、とよなか百景などの景観スポットを使用します。

景観スタイリストの支援について

市は景観プログラムに参加する皆さんが、身近な景観を楽しむことや、好感に気づくといったことから、なかまと景観まちづくりに取り組む意欲や興味につながるように、さまざまな情報提供を行っていきます。

推進の方向

推進施策（重点的取り組み）



普遍的取り組み

(1) PR・啓発

- 景観形成に関する情報提供や各種計画のPR
- 啓発事業の実施

(2) 事業・計画

- 市街地の景観の質の向上をめざした建築物等の規制誘導
- 景観資源の保全
- 良好な景観を創出する公共施設の整備と維持・管理
- 一定エリアにおける良好な景観を形成する事業
- 市民との協働による景観の改善や維持・向上

(3) 推進体制

- 景観担当部署としての取り組み
- 総合的な推進に向けた関連部署との連携
- 国・府・近隣自治体との連携
- 専門家団体との連携
- 市民活動団体との連携

3. 達成目標とPDCA

(1) 進捗状況及び実施効果を把握する指標

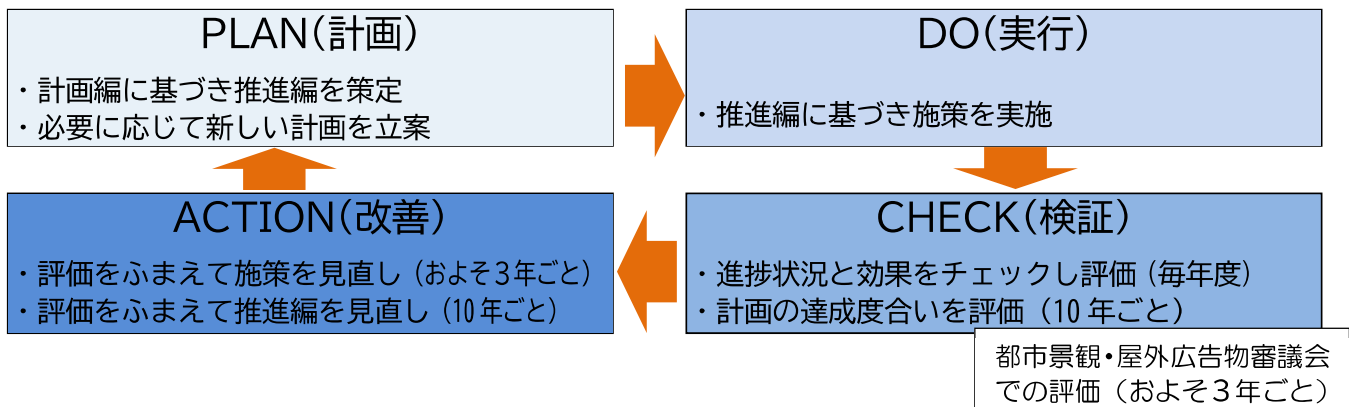
〈アウトプット指標〉 重点的取り組みの進捗状況を端的に把握する指標

重点的取り組み	アウトプット指標		
	内容	現状 (令和5年度)	目標 (令和15年度)
(1) 景観まちづくりの意識向上	景観イベントの参加人数	105人 (令和4年度)	130人/実施年
	イベント等によりみんなが見つけた景観スポット数	(件) ※令和5年度推定値	(50件/実施年) ※仮数値
(2) 景観スタイリストの活躍推進	ステップアッププログラムの修了者数	37人 ※令和5年度推定値	延べ500人
(3) 重点的な地区の景観形成の推進	既存の景観形成協定、都市景観形成推進地区における意向調査の実施地区数	0地区	延べ9地区
	重点的な地区の指定(ルールの担保数)	9地区	延べ10地区

〈アウトカム指標〉 市民目線から景観に関する意識の醸成度合いや景観スタイリストの活動への関心度等を把握する指標

調査方法	アウトカム指標		
	内容	現状	目標 (令和15年度)
豊中市市民意識調査	豊中市の景観や風景・まちなみなどに愛着や誇りを感じる割合	74.5% ※令和3年度	80%
景観に関する催しにおける参加者の意識調査	景観スポットの関心度	—	80%
	景観まちづくりに関する関心度	—	80%

(2) 評価のしくみ(PDCA)



[豊中市都市景観・屋外広告物審議会による評価]

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度
報告	評価	報告	評価	報告	評価	報告	総括評価		

1. 「好感」から「共感」へ。とよなかの景観まちづくり

身近な場所から“いいね！”と感じる景観（＝「好感」）を見つけ、楽しむことができると、まちへの興味や愛着も高まります。さらにひとりの好感がみんなの好感（＝「共感」）になり、理解し合えるなかまと取り組みの輪を広げていけば、まもり、つくり、そだて、いかしていく「とよなかの景観まちづくり」につながります。

とよなかの景観まちづくりの進め方

01

「好感」を見つけよう

身近な場所から“いいね！”と感じる景観「好感」を見つけませんか？そうすれば新たな楽しみ事が増えますよ！ここでは、好感度の見つけ方や、楽しみ方の例を紹介しています。

02

「好感」を「共感」へ

「好感」は、ひとりでも増やすことができますよ。そしてあなたの「好感」がみんなの「共感」に高まれば、まちはもっと素敵になりますね。ここでは、ひとりでも簡単にできる「好感」の増やし方をご紹介します。

03

「共感」を楽しもう

なかまで「共感」を楽しもう！ここでは、なかまづくりや、なかまで「共感」を楽しむための取り組み例をご紹介します。

04

「共感」の輪を広げていこう

なかまと一緒なら、まち全体に「共感」の輪を広げることができますよ！ここでは、なかまと一緒に“いいね！”にあふれた景観まちづくりにつないでいくための取り組みのヒントをご紹介します。

2. 「好感・共感」の持てる景観まちづくりのススメ

好感の持てる豊中をめざして

改めてまちを見てみると、なにげないまちのなかにも、あなたが人に自慢できるような好感の持てる場所があるはずです。

好感の持てる場所をみんながたくさん知っているまち。みんなが自分のまちは素敵だと感じながら暮らすまち。その気持ちをみんなが誇れるものとしてお互いに共有できれば、まちを訪れた人にもきっと伝わります。

住んでいる人が満足できるまち、訪れる人があこがれるまち。そんな豊中をめざしませんか。

好感の持てるまちと景観のカンケイ

自然や地域との関わりを意識しながら暮らしていくことが、地域らしい景観をつくることにもつながります。好感の持てる場所を好感の持てる景観にしていく、そのためには私たちが自然や地域との関わり方を考えていくことが大切です。

3. とよなかの景観まちづくりの進め方

とよなかの景観まちづくりは、ひとりひとりが身近な「好感」を見つけ、それをみんなの「共感」に変え、楽しみ広げていくことで進めていきます。

01 「好感」を見つけよう

02 「好感」を「共感」へ

03 「共感」を楽しもう

04 「共感」の輪を広げていこう

～いいものを見つけよう～

あなたの身近な場所から、“いいね！”と感じる景観(=「好感」)を見つけることから始めてみませんか。

あなたなりのやり方で楽しむのがいいですね。

- 自然の地形からを見つける
- 土地の記憶からを見つける
- より深く楽しむために ～背景を知る～
- 自分のまちを楽しもう
- 「好感の種」を見つけよう

01 「好感」を見つけよう

02 「好感」を「共感」へ

03 「共感」を楽しもう

04 「共感」の輪を広げていこう

～いいものを共有しよう～

好感の持てる景観を増やしていくために、ひとりでもできることがたくさんあります。簡単にできることから取り組んでみてはいかがでしょうか。そして、あなたの「好感」がみんなも“いいね！”と思う「好感」になれば、それは「共感」として高まり合って、まちはもっと素敵になりますね。

- 身近にできることをやってみよう(あなたのお家/あなたのお店/あなたの事業所・工場)

01 「好感」を見つけよう

02 「好感」を「共感」へ

03 「共感」を楽しもう

04 「共感」の輪を広げていこう

～なかまを見つけよう～

ひとりでもできることもたくさんありますが、共感を楽しめば、自然となかまも集まります。共感を楽しむことは、なかまづくりの第一歩！そして、なかまと一緒にやれば、さらに楽しみや取り組みの幅を広げることができます。

なかまを見つける/みんなでまち歩きをする/みんなでまちを楽しむ/おとなりさんと一緒に通りを飾る/自慢の庭を公開する/埋もれたいいものに光を当てる/誰でも参加できるイベントを企画する/市と一緒に取り組む

01 「好感」を見つけよう

02 「好感」を「共感」へ

03 「共感」を楽しもう

04 「共感」の輪を広げていこう

～なかまの輪を広げよう～

なかまといっしょに、まち全体に「共感」の輪を広げていきませんか。「共感」にあふれるまちにしようとする気持ちがなかまを集め、なかまとともにまち全体に取り組みを広げれば「景観まちづくり」につながりますね。

- あなたの思いを地域の思いに
- みんなが好感・共感が持てるのはどんなまち？
- どうしたら実現できるかな？